

誰もが抱える悩みを。パッと解決！

福田貴一先生の 福が来るアドバイス



早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田 貴一

以前は国語・算数の2科目入試を行っていた学校が多くありましたが、現在でも、4科目入試で国語・算数の配点が社会・理科よりも高くなっている学校は多くあります。中学入試では、多くの学校で社会・理科よりも国語・算数の比重が高くなっているのです。国語と算数が重視されているともいえるわけですが、それはなぜなのでしょう。今回は、「学ぶための土台」となる力について考えます。

「学ぶための土台」をつくる

国語と算数は「学ぶための土台」

大学では、多くの学生が自然科学系の物理・化学・生物（医学生理学を含む）といった学部・学科で学んでいます。また、社会科学系では法・経済・社会などの学部にも多くの学生が在籍しています。つまり、小学校や中学校で「社会・理科」と呼ばれている分野を専門に学ぶ人がとても多いわけです。しかし、中学入試では国語・算数が、高校入試でも英語・数学・国語が重視されているのです。

その理由は、国語と算数は将来さらに高いレベルで「学ぶための土台」であり、「学ぶためのツール」だからです。

小学校で学ぶ範囲の社会・理科は、暗記的な要素が大きい科目です。最近の中学入試では「理

科的思考」「社会的思考」を試す問題も増えてきていますが、やはり全般的には、社会・理科の得点は知識がしっかりと身に付いているかどうかで、ある程度決まっています。

もちろん、国語や算数においても、知識は必要です。しかし、それ以上に大切なのは「考える力」であることに議論の余地はないでしょう。例えば算数では、設問で与えられた条件を整理し、どういう切り口から考えれば正解までの道筋を進むことができるかを判断し、そこからやっと、実際に「解く」という作業が始まるわけです。

「国語」で身に付けたい力

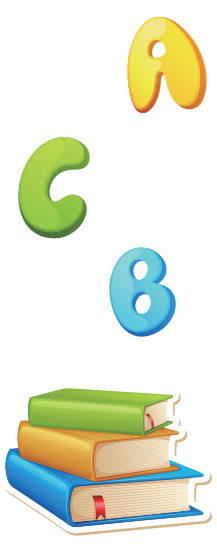
国語という科目が「日本語の学習」ではないのはご理解いただけると思います。もちろん、

国語の学習でさらに重要なのは「表現力」です。文章を簡潔にまとめる（要約する）力、自分の考えていることを伝える力などは、さらに高いレベルでのさまざまな科目学習においても必要になる力なのです。

「英語」というツール

「高大接続システム改革」などの教育改革において、「英語教育」に関する話題が大きく取り上げられています。英語はこれからの将来、より多くのことをより深く学ぶためにも、社会で活躍するためにも欠かせないツールであるのは間違いないでしょう。

今までの日本では、ほぼすべての分野を日本語で学ぶことができました。日本語は表意文字（漢字）と表音文字（かな）を組み合わせたことができるため、「包容力」がある言語だといわれています。そのため、外国から入ってきた新しい概念や知識も「日本語」に置き換えやすく、結果として日本人は、外国から入ってきた新しい事柄についても「外国語を翻訳して学ぶ」という発想になっていたそうです。一方、世界では、他国の知識や文化を学ぶためには「その



小学校低学年までは「ひらがな・カタカナの書き方」などの語学的な要素も多くありますし、中学受験でも「語句知識（漢字を含む）」「文法」といった内容が出題されます。しかし、国語のメインとなっている「読解問題」は、「日本語の力」を試すものではありません。

読解問題が試しているのは、説明文や論説文であれば日本語で書かれた文章に対する「論理的思考力」であり、物語文や小説では「他者を理解する力」や「言葉では書かれていないことを類推する力」です。これらは一言で「読解力」ということもできます。

「読解力」は、日本語で書かれた文章にしか通用しない力ではありません。子どもたちが将来外国語を学び、使いこなすようになれば、その言語で書かれた文章に対しても活用できる力です。

国の言語を学ぶことから始める」という発想を持っている国が多いそうです。その学びの場面において、「世界共通語」と呼ばれる英語が大きな役割を果たしているのです。

これからの社会は…

社会の変化スピードを考えると、外国語をいちいち日本語に翻訳してから理解していくのは遅い時代になってきたといえるでしょう。さらに現代は、「一人の天才が成果をあげる」という時代から、「能力の高い個が集まり、チームとしてより大きな成果をあげる」時代へ移り変わったといわれています。そんな時代に必要とされるのが、「協働力」と呼ばれる力です。そして、チームそのものがすでにグローバル化しつつあることはご存知の通りでしょう。「協働力」のなかには「他者理解力」「コミュニケーション力」などのさまざまな要素が含まれますが、それらの根底に必要なのが「共通言語」としての英語になるのです。

そういった時代背景を受けて、英語で学び、活躍していくために「読む・書く」だけではなく「聞く・話す」という力（英語4技能）の重要性が認められ、大学入試においてもそれらの力を問うような変革が検討されているのです。

中学受験における「英語」

英語は小学校の学習科目にもなっています。

福田 貴一の
四つ葉café 公開中!

福田 貴一
早稲田アカデミー
教育事業本部
副本部長

中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はホームページをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索

左の二次元バーコードを読み込んでご確認ください
スマートフォンのみ有効